

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175300326		
法人名	有限会社 ケアサポート ほっこう		
事業所名	グループホーム 陽だまり 小清水館		
所在地	斜里郡小清水町字共和13番地の7		
自己評価作成日	平成23年10月17日	評価結果市町村受理日	平成23年12月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた環境で、静かにのんびり過ごす事ができます。小さい町ということもあり、入居者の知りが地域の中に多いことから、散歩や買い物時に声を掛けあう環境となっています。施設介護としては、ケアマネージャーを中心に利用者主体の介護を実践するように話し合いながら進めています。また、栄養士がカロリー計算をして献立を作成しているのも当事業所の特色といえます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0175300326&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成23年11月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小清水町の北部市街地で静かな環境に恵まれたグループホーム陽だまりは平成15年に1ユニットで開設されその後、需要の拡大で現在は2ユニット18名の定員で運営されています。「利用者を個人として尊重し、自分らしく自由に主体的な決定を行なえるよう支援し、安心と喜びのある暮らしを提供することを約束いたします」の理念のもと、さらに「利用者のことをより知ろう..」をユニット目標に掲げあくまでも利用者本位で一人ひとりに適した介護に取り組んでいます。個人の生活記録には理念や介護計画が記載されておりどの職員でも同一のサービス提供に努められるような体制をとっています。提供されるサービスの中でも特に食事に関しては専任の栄養士を配置し、毎月給食会議を開催し、利用者の栄養ケアや、献立に好みのものを取り入れ、きめが細かく楽しい食事提供を行なっており、利用者の楽しみになっています。また、職員の向上心は旺盛で個人の目標設定で研修に積極的に取り組んで行きたいと言う姿勢が何れも向上を目指しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をベースとしてケアに取り組み始めるよう行っている。途中入社した職員にも理念を共有してもらえようとしてオリエンテーションで伝えている。また、玄関にも掲示し自己確認出来るようにしている。	玄関やホールに掲示したり名刺や利用者の個人記録日誌に記載して常に意識に置きながら介護に活かす取り組みをしています。更にこの理念をもとにユニットの目標を決め利用者本位の介護の実践を目指しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の活動等には極力参加し交流が出来るよう努めている。	町内会に加入はしていませんが、近隣の社会福祉協議会や特別養護老人ホームと一緒にまちづくりの活動をしています。また、保育所園児や近隣の方の訪問を受け利用者として交流をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	どのような形で地域への貢献ができるか町内の方々と運営推進会議等で話し合っている。また、来所や電話にて介護上での相談を受けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通し、情報交換や意見、質問をいただき、それに対し報告や返答を行っている。	本年度から2ヶ月に一度委員に利用者家族、社協職員、自治連合会役員、役場職員、駐在所、日赤看護ステーション職員、民生委員と多彩な構成で定期的に開催しています。家族には全員に案内をして欠席した方には報告書を送り情報の共有に努め円滑な運営に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設広報誌を役場に渡し観てもらおう事で、施設の出来事を伝えるよう取り組んでいる。役場職員との連絡を密に行い、施設の情報を共有している。	運営推進会議の出席のほか年4回発行の「陽だまりだより」を役場に届け日頃から密接な関係構築に努めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニットごとに会議等で拘束しないケアを実践するように話し合っている。また、内外研修で職員に学習してもらう機会を作っている。	各ユニット毎の会議の中でどの行為が身体拘束にあたるのかを確認しながら拘束をしないケアの実践に努めています。玄関の施設は夜間のみであり基本的に見守りで対応しています。	各ユニット毎の会議の中で話し合いが行われていますが、それが身体拘束の全体をとらえるには至っていません。新人が多数を占めている現状では外部研修をはじめとした体系的な研修体制の構築を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日のミーティングにより、利用者の状態を把握し虐待の防止に努めている。また研修等へ参加し、会議での話し合いを重ね日々のケアに生かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者がいるので、研修等で学習し、支援に役立っている。また、何かあった場合の為に関係機関に相談できる体制をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書説明時や解約時の手続きを行う際、ゆっくりと時間を取り疑問点などを聞き出せるよう配慮している。又、電話対応や面会時等も理解・納得できるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族が参加する事で意見交換が行えている。また、家族会を立ち上げているので、情報交換の場として有効活用している。	利用者、家族の意見や要望は日常の会話の中から把握し、ユニット会議、全体会議の場で改善に向けての話し合いを行い運営に反映しています。また、苦情については迅速かつ的確に処理をして改善し、信頼の構築に努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの状況や環境も考え、出来る限り、仕事のしやすい環境を整えられるよう配慮している。	各ユニットのプラン検討会議、全体会議にて職員の意見や提案を聞く機会を設けています。また、管理者はユニット目標達成の為に個人計画について面談をし、その中で意見を聞き、運営に反映させています。	新規採用で職員体制を整えている段階となっています。その中で職員の向上意欲は旺盛にありますが、事業所全体での研修体制がこれからとなっています。年間計画に基づき研修体制を構築し育てる取り組みを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本年度より人事考課を取り入れている。年度末に面接・評価を実施したいと考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内の研修だけでなく、本人が学びたい事を外部研修で学べるように配慮している。また、毎月のプラン検討会議の中でもケアについて話し合いながら全体での向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他市町村のGHと連携を取り合同勉強会等へ参加している。地域の中でも病院や社協等の勉強会に積極的に参加し施設サービスの向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設を見学していただいたり、入居前の事前訪問を通して、御本人の思いや要望を聞き、ホームとしてどのような事ができるかを伝えている。収集した情報は入前にスタッフに伝達している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学時や電話があった場合、又こちらから連絡した場合にも家族からの不安や相談などをゆっくり聞き、少しでも気持ちが落ち着けるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の要望なども聞き入れ、状況に合わせて社会資源の利用や、紹介を行い速やかに実行できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活においてお互いが助け合え、楽しみを分かち合える関係になれるよう過ごし、孤独にならぬよう支え合っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の生活を支えていく上で、ご家族の協力が大切であることを職員から機会があるごとに伝え、状況に応じて協力してもらっている。また、家族から相談があった場合は一緒に考え対応できるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人との外出、手紙や電話の支援を行っている。面会者の来訪事はゆっくりと過ごしていただけるよう配慮している。住んでいた町まで出掛ける事もある。	利用者一人ひとりがこれまで大切にしてきた関係を途切れさせないよう、かつて住んでいた近隣への訪問や、馴染みの理容院の出張依頼、また知人の来訪を大切にすることの支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の一人ひとりの生活を第一に考えているが、できる限り関わりが持てるよう食事をともにしたり、隣ユニットへ顔を出し馴染めるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も良い付き合いを行えるよう努めている。相談等があれば随時承っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの些細な言動でもスタッフ間で話し合い、意見を出し合い、汲み取り実現できるよう出来る限りの配慮を行っている。	利用者一人ひとりの思いや希望は、日々の暮らしの中から意向を把握して実現出来るようにしています。特に思いの強い利用者にも見守りを中心に本人本位に支援を行っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のアセスメントで情報収集を行い、可能であれば事前訪問も行っている。入所後も場面場面で家族から情報をいただき協力をお願いし、ホームでも本人らしく生活していただけるような支援を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別アセスメントシートに記入し本人の状況を総合的に把握している。また、毎月の会議にて日々の言動や行動を、個別にスタッフ間で話し合い、情報交換している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活中での本人の言動、家族からの要望、提携医療機関からの指示などを取り入れ、スタッフ間での情報などを基に作成している。	アセスメントやフェイスシートを丁寧に作り介護計画に活かしています。概ね6ヶ月に一度見直しをしていますが、状況が変わった時は随時行っています。また個人記録には事業所の理念と介護計画を記載して常に利用者の身体能力向上を目指しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別フェイスシートや処方箋、検査結果等を個人ファイルにファイリングし、日常においてスタッフ間での情報交換等を必要時に行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の言動、家族面会時や電話対応時の要望など、スタッフ間で情報交換を図り状況にあった支援が出来るようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	幼稚園児、地域住民との交流、ボランティアの受け入れ等で楽しみの機会を持って頂いている。今後はさらに一人ひとりに向けた地域資源の把握に努め活用して行きたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人、ご家族と話し合いを持ち、通院状況を把握し、かかりつけ医に受診できるよう柔軟に対応している。	医療機関が近く、病状の変化や急変時にすぐ対応ができるなど、適切な医療が受けられ、安心して生活が出来る体制になっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所として訪問看護ステーションと契約し、週に1回ホームへ来ていただき、入居者の健康管理を行って頂いている。その他、24時間オンコール状態、緊急時の電話相談、訪問等の連携支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関へ情報提供し、事業所内での対応が可能な時点で、なるべく早く退院できるよう努めている。病院から連絡があった場合で、家族の都合が合わない場合等は、施設が変わりに対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者からの方針の説明、スタッフ、主治医間での情報交換、重度化や終末期の方針をその都度話し合い、その入居者にあった支援の目標、方向性を共有している。	契約時に看取りに関する指針について説明し、同意を得ています。その時期が見られたときは、再度、意向を確認し、同意書を交わし、本人、家族の思いに添えるよう話し合い、支援に努めています。	新しい職員も多く、勉強会や研修を通じて、終末期における介護の理解を深め、支援に取り組むことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各ユニットにマニュアルを用意し、いつでも目を通せるよう設置、又、年1回程度普通救命講習を受講している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の自衛消防訓練を実施し、消防署職員を呼び、消防活動に対する指示・助言をいただいている。又、運営推進会議でも地域の協力体制について話し合っている。	消防署の協力を得て、年2回、日中、夜間を想定した避難訓練を実施しています。運営推進会議の中で避難訓練の報告が行われ、協力が得られるよう働きかけています。	運営推進会議の中で、防災対策について話し合っていますが、避難場所や地域の協力体制を早急に確立すると共に、検討している緊急時対応方法等についても実施するなど、更に、防災強化に取り組むことを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の個性、人格を尊重し、接する態度、言葉使いに留意しながら対応するように心掛けている。	職員は利用者一人ひとりの個性、人格を尊重し、尊厳を傷つけない接し方や言葉かけを心掛けています。個人情報取り扱いについては同意書を交わし、会議などで折に触れて話し合い、周知徹底を図っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の表情や言動を察知しそれに対する説明を行い、本人が自ら決められ、意欲低下にならず、納得できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、それに合わせた対応を心掛けている。食事についても利用者の好き嫌い合わせ代替え品を用意し提供している。入浴や行事等、スタッフ間で決定する内容もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思を尊重し支援している。理容・美容は訪問理美容を活用し、ご本人の要望に沿えるよう努めている。また、なじみの美容室へ出かける利用者もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合わせた食事提供や、誕生日など行事の際は本人の嗜好に合わせた食事を提供している。又、利用者の出来ることは行ってもらよう支援している。	毎月、栄養士と共に給食会議を開催し、季節に合わせた食事や誕生日・行事の際は本人の嗜好に合わせた食事が提供されています。利用者の出来ることは無理強いせずに行って貰えるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表でその日の食事・水分の摂取量に把握を行っている。一人ひとりに合わせた量・形状・好みに配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個別にうがいや義歯洗浄を促し口腔内の清潔に努めている。また数人の方は入れ歯洗浄剤を毎日使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターン、習慣に合わせて支援している。おむつ使用を避け自然排泄の継続に努めている。見守り・介助の必要な方にはご本人の負担にならないように配慮しながら行っている。	排泄表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、おむつ使用を減らすなど、トイレでの排泄を大切にしています。見守り、誘導介助により、可能な限りトイレで排泄できるよう工夫しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容を考え食物繊維の多いものを提供している。また、牛乳やその他乳製品も定期的に提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	決まった時間に希望がある入居者に対し、本人のタイミングで入浴できるよう声掛けを行っている。又入居者の状態、気分を考慮している。	利用者の希望や入浴拒否の利用者には声かけ等の工夫をし、週2回の入浴日を設けている他、状況に応じてシャワー浴、足浴が出来るよう、その都度、柔軟な対応に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間熟睡できず日中傾眠が見られる場合などは短時間でも良眠出来るよう臥床への声掛け、ソファで休息していただくなど、入居者本人の状態に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	フェイスシートに使用している薬を記入している。また、個人ファイルへ処方箋を添付し理解している。起床時、朝食、昼食、夕食後、就寝時分の薬を日付を記載し用意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの楽しみや本人の趣味を考慮し、他入居者と楽しめるよう機会作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候、健康状態を考慮し、こちらからの外出の声掛け、又本人の希望にて急な散歩等の要望に答えられるよう努めている。	天気や体調に考慮しながら、散歩、買い物に出掛けています。町の行事(ふれあい広場)には全員が参加できるよう配慮するなど、楽しみに繋がるよう取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理に対し持参していないと不安が生じる入居者に対し、契約者、ご家族などにその都度説明、相談し、決められた金額を所持できるよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前に家族に電話連絡可能時間を聞き、入居者本人からの要望があれば可能な時間内での会話をさせていただけるよう努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔の保持に努め、季節の花や写真、利用者の作品などを飾り、良い環境作りに努めている。	共有空間は明るく、日当たりが良く、開放感があり、衛生面にも配慮がされ、利用者の写真や作品を飾るなど生活感が感じられるよう工夫しています。光、温度、音も適切に調節されており、居心地よく過ごせる環境作りに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはテーブル・椅子、ソファを置いて、お好きな場所でくつろげる環境を整えている。また、庭先のウッドデッキにもイス等を置き、ゆっくり過ごして頂ける場所になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の入居状況に合わせ家族と相談し使い慣れた物、もしくは新たに購入したものを使用している。ただき入居者が過ごしやすくなるよう工夫している。	居室には本人の使い慣れたもの、また、新たに購入したものが持ち込まれ、落ち着ける空間になるよう工夫がされています。現在、利用はありませんが、1号館にはコネクティングルームが用意されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーの中、各部屋に表札をつけ、トイレ、風呂場など解かり易いように表示している。		